

研究のあゆみ



天草市立本渡南小学校

本校概要



規模

全校児童405名 学級数18
天草市で2番目に大きい規模



研究

令和2年度 令和3年度

「学級力向上」に関する研究

令和4年度 令和5年度

児童主体の授業改善に関する研究（ICT活用）

今年度 **LDX事業1年目**

アドバイザー 東京学芸大学教職大学院 堀田龍也教授



ICT環境

端末…Microsoft

OS…1～4年Microsoft、5・6年ChromeOSFlex

アプリ…SKYMENU



1

研究概要

2

授業改善部会

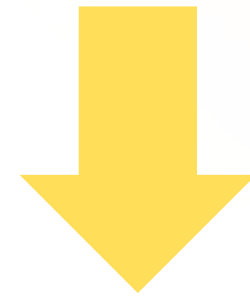
3

学びの基盤部会



学校教育目標

夢や目標に向かって自ら動く南っ子の育成



研究主題

『能動的に学び続ける力』を身に付けるための実践的研究

～児童の「よりよい学び」と

「見方・考え方の育成」に繋がる学びづくり～

「よりよい学び」とは

児童が学びを広げ、深めるための「自己決定」「自己調整」
「相互啓発」を繰り返しながら学ぶこと

「よりよい学び」を生み出すために

★児童の「学び方のスキル」の育成

学び方のスキル

個別最適な学びのスキル（4項目）

・ 学習の見通し・めあて（課題）設定・学習の進め方・振り返り

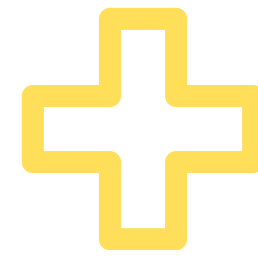
【興味・関心、学習形態、ツール、習熟度、時間】

協働的な学びのスキル（1項目）

コミュニケーション

授業改善の2本柱

「学び方のスキル」の
育成



見方・考え方の
育成

「よりよい学び」へ

「教科の本質」へ

児童の「能動的に学び続ける力」の育成へ

研究の組織（部会）

授業改善部会

- ・ 学び方のスキルの育成
- ・ 見方・考え方の育成

学びの基盤部会

- ・ 情報活用能力の育成
（「わたしたちと情報」の活用）
- ・ タイピングスキル
- ・ 端末持ち帰りの充実

1

研究概要

2

授業改善部会

3

学びの基盤部会

学び方のスキル育成について

課題の設定 「言葉の意味が分かること」を「読者の10の観点」で読む

情報の収集 読者の観点⑥⑧⑩に自分のペースで取り組む。

整理・分析 FigJamに整理しアウトプットする。

まとめ・表現 振り返りシートに記入する。

国語の目
意味段落...「接続語」「話のまとか」
要約...「要点→まとめる」
要旨...「文末」「大まかな表現(抽象)」「事例(具体)」

課題の設定 質の高い本をくぐりぬぐう工夫と読者の関心が高い本を大々読むことを考える。

情報の収集 予想「工夫」を調べる

整理・分析 工夫→目的→共通点

まとめ・表現 振り返り

④社会の目
「工夫」「目的」「生産者」「消費者」

⑤考え方
「くらべると?」「一言で言うと?」「結び付けると?」

体ほぐし運動③

ココカラレベルをグラフに表し、チャットにURLを貼り付ける

【課題の設定】
・キャッチアンドリリースをどう工夫すれば、ココカラレベルが上がるだろう

【学びの選択】
・班の体調に合わせて、班ごとに準備運動を選択する(ココカラレベルを参考にして)
・キャッチ&リリースを一人やペアでやる
・マスターシートにやることを書く(体育の心やココカラ宝箱を入れて)

【情報収集】
・ココカラレベルが変化した際に書きに行く
・チャットから工夫を見つける

【整理分析】
・チャットなどを見て、他の班の工夫や活用しているココカラ宝箱を参考にする

【まとめ・表現】
みんなの前で発表する

【振り返り】
①...できたこと
②...できたこと
③学び方...学び合い、ツールなど

Chat: 6-1 全般 31人のメンバー・限定公開

大塚瑞貴 46分

ココカラ

上皿自動ばかり (2kg)
上皿自動ばかり (1kg)
上皿自動ばかり (200g)
体重計 (100kg)

最大の重さの小さい目盛り
軽すぎ△

はかるものの形や重さを考えてえらぶとよい。

かだい
予想
じょうほうあつめ
はかる
シートに入力
せいり・ぶんせき
どうやったら? 話し合う
まとめ・表現
おしんじ!
ふり返し

木曜 当番木下

例：Figjam上でいつでも参照＋意識付け

「△がわかる資料が必要だな！」

★学び方のスキル★

コミュニケーション

- ・ 仲のいい(話しやすい)友達だけでなく、自分の学びに応じて意図をもってアウトプットすることができる。
- ・ 「考え方を表す言葉」を意図的に使ってアウトプットすることができる

振り返り

- ・ 振り返りの視点に沿って書くことができる。
- ・ その授業だけでしか書けない振り返りを書くことができる。
- ・ 見方・考え方を入れながら書くことができる
- ・ 量→質

手立て表を各教室で保管



クラウド上で加筆修正しながら

児童の学び方のスキルを育成するための教師の手立て・具体例集

本渡南小学校の先生方が取り組んできた実践の中で効果的であった手立てを集めてみました。今後も授業改善に努めながら、学校全体での共通実践につなげ、研究を進めていく予定です。

1 「学習の見通し」のスキル								
低：慣れる・一緒に決める	中：自己決定	高：自己調整						
<p>手立て</p> <p>□1-(1) 単元のゴール・身につけたい力を明確に可視化して児童と共有する。</p> <p>□ 単元計画や単元のゴールを教室に掲示したり教科書で確認したりする。</p> <p>□ 単元計画や単元のゴールを教室掲示やクラウド上で示して児童と話し合いながら単元計画を立てる。(クラウド上…Googleクラスルームを主に使用)</p> <p>□ 単元計画や単元のゴールをクラウド上で示す。(クラウド上…Googleクラスルームを主に使用)</p>								
		<p>単元目標：日本の工業生産を発展させるための「工業生産レベルアップ取組ブック」を作ろう！</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>パフォーマンス課題</th> <th>重要キーワード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本の工業生産と発展・発展について学習してきたこと、社会課題の解決に取り組むこと、工業生産の発展について学び、その発展を促すこと、工業生産の発展を促すこと、工業生産の発展を促すこと</td> <td>2070年までの目標、2070年までの目標、2070年までの目標</td> </tr> <tr> <td>工業生産の発展を促すこと、工業生産の発展を促すこと、工業生産の発展を促すこと</td> <td>2070年までの目標、2070年までの目標、2070年までの目標</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「単元のゴールや身につけたい力をいつでも自分で確認しながら学習しましょう。」 ※パフォーマンス課題とは…単元を通して考えていく、実生活に近い内容を含んだ課題。 ※ルーブリックとは…評価を表として示し、児童と教師が共有するもの。(高学年のみ活用)</p>	パフォーマンス課題	重要キーワード	日本の工業生産と発展・発展について学習してきたこと、社会課題の解決に取り組むこと、工業生産の発展について学び、その発展を促すこと、工業生産の発展を促すこと、工業生産の発展を促すこと	2070年までの目標、2070年までの目標、2070年までの目標	工業生産の発展を促すこと、工業生産の発展を促すこと、工業生産の発展を促すこと	2070年までの目標、2070年までの目標、2070年までの目標
パフォーマンス課題	重要キーワード							
日本の工業生産と発展・発展について学習してきたこと、社会課題の解決に取り組むこと、工業生産の発展について学び、その発展を促すこと、工業生産の発展を促すこと、工業生産の発展を促すこと	2070年までの目標、2070年までの目標、2070年までの目標							
工業生産の発展を促すこと、工業生産の発展を促すこと、工業生産の発展を促すこと	2070年までの目標、2070年までの目標、2070年までの目標							
<p>◎「単元のゴールを一緒に確認しましょう。」</p> <p>☆ スプレッドシート…単元の学習課題に対する考えの変容、振り返り等に活用させる。</p> <p>☆ スライド…ポートフォリオ形式で児童に配布し、一時間ごとの記録(ノートの代わり)に活用させる。</p> <p>☆ ジャムボード…単元導入時、個人用を白紙で共有しておき、紙のノートの代わりとして活用させる。</p>								

「学び方のスキル」の育成



9.10月 全学年重点項目「コミュニケーション」

	「学び方のスキル」9.10月重点項目（最高2つ）	理由や具体的な手立て等	振り返り（月末）
低学年部	<p>学習の見通し</p> <p>コミュニケーション</p>	<p>【学習の見通し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が単元の流れをつかむことで安心して学習に向かえるようにするため。 ・単元のゴール・身につけたい力を明確に可視化して児童と共有する。（掲示物） <p>【コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア学習のねらいをつかませる。（単なる伝え合いにならず意図をもって活動できるように） ・考えをもてなかったときも、自分から相談に行けるように。 	<p>【学習の見通し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習の流れは国語・算数バージョンを作成 ・単元のゴール・身につけたい力は単元は必ず児童と確認し、応用紙に書き掲示できた <p>【コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲のいい子との伝え合いになり、なかなか意図をもって活動させることができなかった → 亀川小の取り組みの例をもとに、だれとコミュニケーションをとることができるのか掲示物を用意してみたい ・低学年なので、こちらから個別に「〇〇してみようか」と誘導も必要
中学年部	<p>学習の見通し</p> <p>コミュニケーション</p>	<p>【コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困ったときに、自分から動く児童を育てるため。 <p>手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループ、全体での学び合いの目的を示す。 ・他者の考えを参考にできる場作りをする。（聞きに行く、クラウド上で確認するなど） <p>【学習の見通し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次に何をすべきか考えて学習する児童を育てるため。 <p>手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習過程を板書やクラスルームに示す。 ・進度差に応じた課題や活動を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4年部では、社会科を中心にクラウド上での他者参照に取り組んでいる。 ○ 3年部では、スプレッドシートやスライドなどを使って他者参照できるようにしている。 ○ 自分から友達の見え方を見てみようという意識を育てていく必要がある。 ○ 意見を出し合う時間が短縮できるので、深め合う活動に時間を確保できる。 ○ 学習過程を提示することで、自分の速度に合わせて学習ができるよさがある。ただし、どこで全体指導を入れるかが課題。
高学年部	<p>学習の進め方（学習...）</p> <p>コミュニケーション</p>	<p>【コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の前の発表の機会の確保 ・単元終末で全体orグループで、まとまった自分の考えを発表する場の確保 ・話し方・聞き方・意見の繋ぎ方等の具体化、価値付け <p>【学習の進め方（学習形態）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こんなときこそアウトプット」の活用 ・「今、〇〇さんと交流しているのはなぜ？」 <p>※振り返りで2つの視点から記述させる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体発表の確保（5年部） ・アウトプットの価値付け→△考えをつなぐ △アウトプットを促す必要がある ・「つっこむ」 ・国語はノートに書いた方がいい？ ・ R6 社会単元計画
特別支援部	<p>学習の見通し</p> <p>コミュニケーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のはじめに、板書や学習ボードで確認を行う。 児童が決めたり、入れ替えたりする場を設定する。 ・児童の興味関心や強みを生かして、教材・教具を選定できるように準備する。 例：具体物or半具体物orイラスト 鉛筆orペンorチョークorタブレットor文字カード ・コミュニケーションの方法を選べるように朝の会を進化させる。 例：発表の場、文字、反復、言い方、答え方 	<p>○ 学習の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しを立てて、学習を進めることができた。 ・行事とリンクさせることができた。行事を書き起こす（振り返り） <p>○ コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高学年は特に慣れているので、個に応じたルールの強化が必要だと感じている。はじめ ・授業の中での反応に重点を置いた。発信は得意だが...取組中である。 ・一日一回、授業の中で発表することを目標にしている。少しずつ慣れてきている。 ・話型を使っているコミュニケーションは、上達してきた。（通級学級） ・色々な先生方に関わっていただき、話し合いの学習ができた。

重点項目

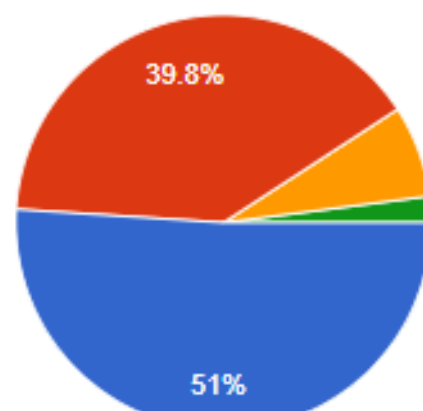
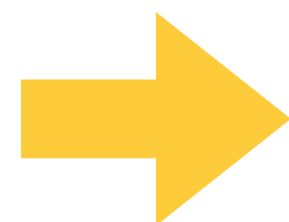
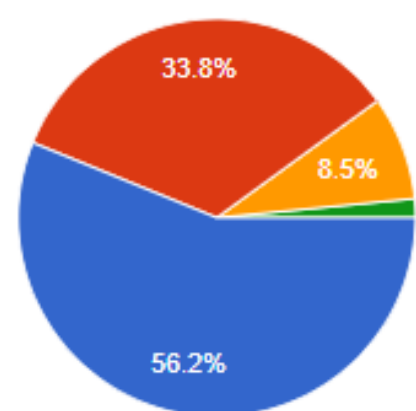
学び方のスキル「**学習の進め方（学習形態）**」について

質問「一人学びや学び合いを自分で決めたり、調整したりしながら学習を進めることができますか。」

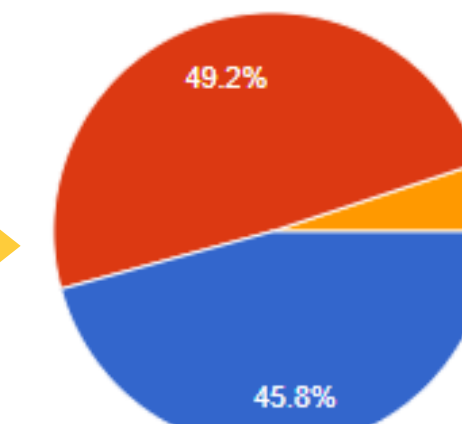
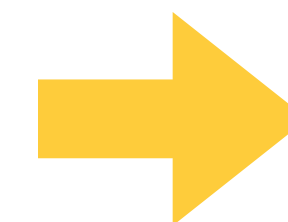
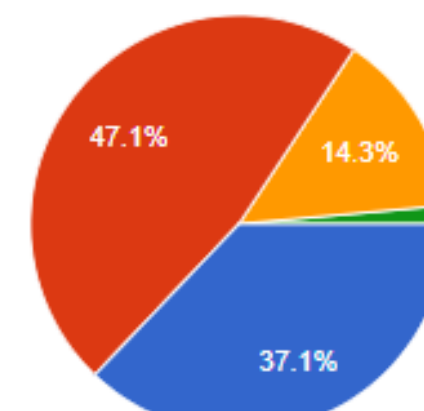
→全学年90%以上が「いつもできる・だいたいできる」と回答

いつもできる、**だいたいできる**、あまりできない、できない

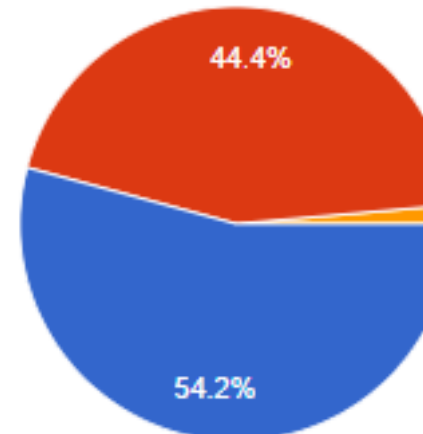
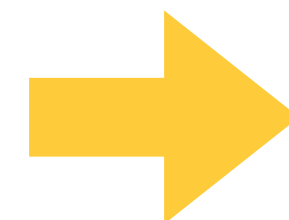
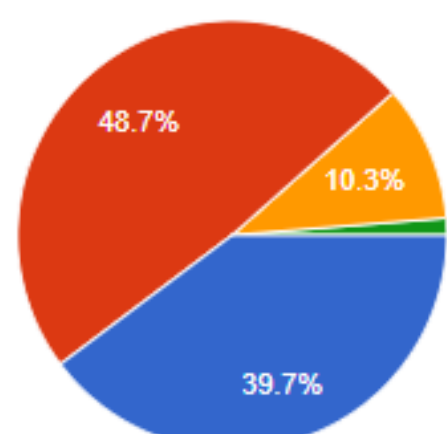
低学年



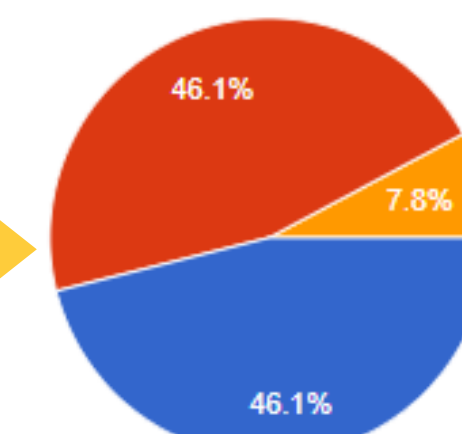
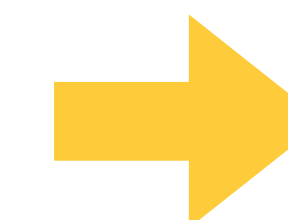
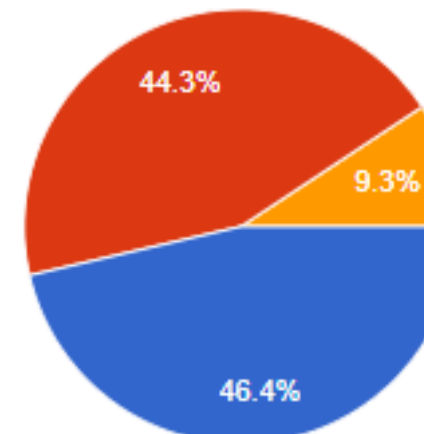
3年生



4年生



高学年



重点項目 学び方のスキル「コミュニケーション」について

質問「どうやって話し合う相手を決めていますか」

(4年生)

- ・ その教科が得意な人
- ・ 仲がいい人
- ・ 近くの人

(5・6年生)

- ・ いい意見をもつ人
- ・ 自分と意見が似ている人
- ・ 自分と視点が違う人

こんな時こそ アウトプット



アウトプットの質を高める
ために、「意図」を意識付け

その他

タブレットを使った授業のよさについて

(4年生)

- ・ タイピングが速くなった
- ・ 調べたり、まとめたりが簡単
- ・ 他者参照・意見の共有がしやすい
- ・ 整理やまとめがしやすい
- ・ 共同作業が楽しい
- ・ 学習が楽しい

(5・6年生)

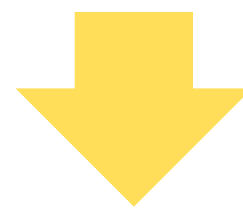
- ・ 他の人の意見や考えが見やすい
- ・ 書くより効率的・時間短縮できる
- ・ 調べるのが簡単
- ・ アウトプットや共有がしやすい
- ・ チャットなどで直接話さずにやりとりができる
- ・ 視覚的に分かりやすい

見方・考え方の育成について

重点項目 学び方のスキル「振り返り」について

スプレッドシート上での振り返り

今日まとめた中で海に近いと平野があって海に遠いと山地や山脈があるということがわかりました。今日は、友達とアウトプットができなかったので次はアウトプットしたいです



Figjam上での振り返り

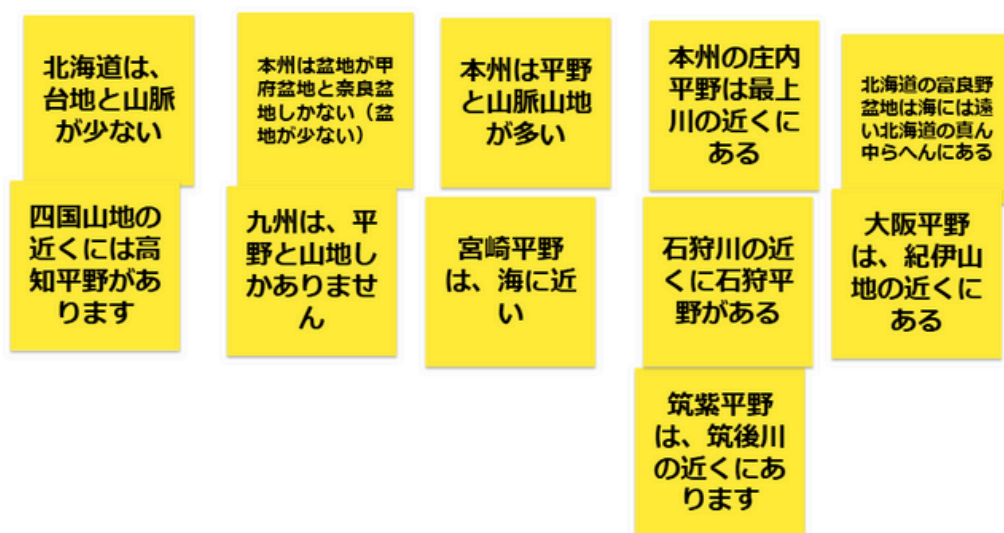
振り返り

今日学習していつもよりまとめるスキルが上がったと思いました。組立工場の工夫は機会を多く使っていることだとわかりました。重たい部品をきかいて運んだりしていることはわかりました。そしてその工夫は工場で働く人々が考えたアイデアだとわかりました。この学習をして次調べていきたいと思ったのはたくさんあって流通の視点では完成した自動車はどうやって売り場まで出されるのか、作る材料（部品）はどこから運ばれてくるのか費の視点では自動車の生産の費用はどんなものが含まれているのか自動車生産にはどんな課題があるのか、自動車生産にはどの様は変化があるの、これからの視点では新しい性能をどうやって生み出すのかということ次調べたいです。今日ふゆとくんが、「工夫の視点で」自分から意見を聞き来てくれたので嬉しかったです。次は自分がアウトプットに行きたいです。

年度当初

jamboard上での整理

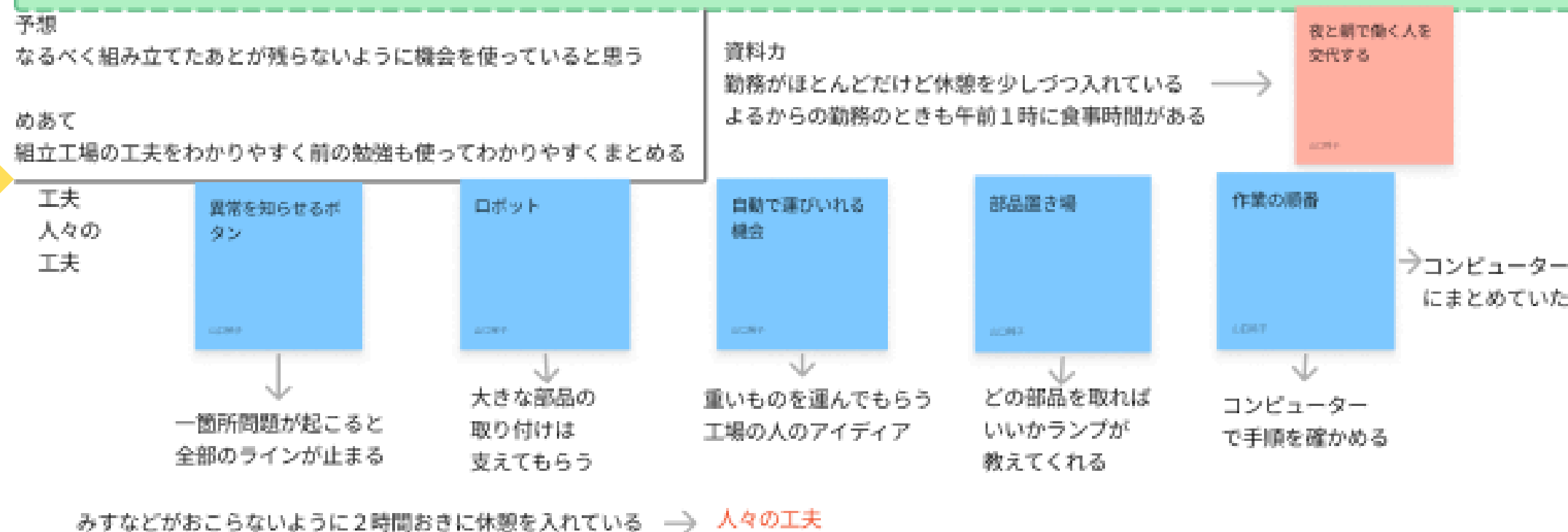
29 課題 気候の違いと地形の関係をとらえよう



2学期途中

Figjam上での整理

組み立て工場のくふう



見方・考え方を働かせて、
問いを持ちながら情報を
整理・分析している

もっと調べたいこと

自動車を作
るときの課題点

新しい性能を
どうやって考
えるのか(こ
れからの視
点)

自動車生産は
どんな変化が
あるのか

自動車はどう
やって売り場
まで運ばれる
か

費用はどんな
費用がかかっ
ているのか

部品はどこか
らおくられ
くるのか(こ
達の視点)

前の水産業や米づくりと似ているところ

どれも「効率がよくなるような工夫」がある！！

まとめ

自動車を作るときに工夫は機会を使っているのが多い。どの部品を組み合わせるかを機会がランプで教えてくれるたり人々のための工夫はミスが無くなるように2時間おきに休憩をいれる米づくりなどと似ているところは工夫を調べたところ。

主幹教諭による算数の理論共有



指導教諭による国語の理論共有





国語科の授業づくりに関する資料共有

見方・考え方を働かせる授業づくり

1 見方・物事をどのような立場から見るか、あるいは物事のどのようなところに目をつけるかという視点

ア 学習指導要領より

[小1・2年]

○知・技

身近なことを表す語・・・日常生活や学校生活で用いる言葉 周りの人について表す言葉 事物や体験したことを表す言葉

○思・判・表

話・聞 身近なこと(学校や家庭、地域における身近な出来事)や経験したこと

書 順序(経験した順序 物を作ったり作業したりする手順 事物や対象を説明する際の具体的な順序)

読 場面の様子 登場人物の行動 会話 本や作品の題名 場面の様子を描いた挿絵

[小3・4年]

○思・判・表

話・聞 目的(説明や報告をする、知りたいことを聞く、互いの考えを伝え合う)

話題(学校や家庭、地域のことなど、児童が日常生活の中で興味や関心をもっていること)

書 内容のまとめり 段落相互の関係(考えとそれを支える理由、考えとそれを具体的に近づく事例、列挙された事例同士の関係)

読 登場人物の気持ち・・・行動 会話 地の文

[小5・6年]

○知・技

表現の工夫(比喩や反復、倒置など)

○思・判・表

書 筋道(考えとその理由や事例、原因と結果、疑問と解決)

読 登場人物の心情(直接描写されている場合、行動・会話・情景などに暗示して示されている場合)

行動を修飾している言葉、口調など見方を具体化する

イ 領域別

読むこと

文学的文章 ①場面構成・・・時 場 人物設定

②表現・・・題名 反復表現 比喩 象徴 情景描写 色彩表現 文末表現

③視点・・・語り手は誰に寄り添っているか

④人物・・・様子 表情 言動 呼称 服装 小道具

⑤文体・・・敬体 常体 和文調 漢文調

⑥文法・・・修飾語 接続語 副詞 形容詞 感動詞 助詞 助動詞 動詞

説明的文章 ①構成・・・問い 話題 答え 具体例 主張

②表現・・・題名 反復表現 比喩 文末表現

③文法・・・指示語 接続語 副詞 形容詞 助詞 助動詞 動詞

話すこと・聞くこと 書くこと

目的 相手 場・状況 方法 評価

2 考え方

低学年	中学年	高学年	中学校
比較 具体化 定義 類推(同化)	低学年に加えて 分類 帰納 因果	中学年に加えて 抽象化	小学校で学んだ思考 仮説 演繹

3 授業づくりの原則

①学習課題の設定・・・何を指すのかをはっきりさせ、主体的な学びを促す(追究への意欲をもたせる)

②追究の見通し・・・活動の自由度が高くなるほど、活動前で見通しが大切。

ア 活動の見通し・・・学習の流れ

イ 見方・考え方の見通し・・・どこに目をつけ、どのように考えるのか ※必要に応じて「書き方」を示す。

見通しの示し方 →教師が示す、教師が示す→練習教材、既有知識をいかす

③追究・・・個人追究 協働追究(少人数 学級全体)

対話

ア 目的と反応のある対話 △発表し合う

反応「共感」自分と似ている「驚き」自分が思ってもいなかった新鮮な考え

「疑問」考えの道筋や内容がよく理解できていない

※形式的にならないようにする。互いを大切にすることが、知らず知らずに「同調圧力」とならないように気をつける。

イ 絞り込む対話と高め合う対話

絞りこむ対話 課題に対する答えを多面的に追究し、絞り込んでいくもの。最適解を目指す。

高め合う対話 課題に対し多面的に表出される答えを組み合わせて、新たな解を創出する。

「お互いの考えをたし算しよう」

ウ 見方・考え方を読み合い、価値付ける対話

内容とともに、見方・考え方を理解し合い、価値を認識し合える対話を心がけることで、追究の内容や見方・考え方の質の向上、及び他者理解にもつながる。

※教師の役割 学習課題の解決に向けた追究を進める学習者どうしの発言の仲介役となったり、学習とともに課題解決に向かったりする

④まとめ 協働追究を経て、更新された自分の考えをもたせる。R

絞り込む対話→まとめが1つになる。理由も書かせると、本当に理解しているか確かめられる。

高め合う対話→各自の考え

⑤振り返り どのようなことをしたら何がわかった(できた)か、次はどんなことができそうか。

学びを行ってきた主体の外側から主体を見つめること。

ア 何ができたか、わかったか イ どんな見方・考え方を働かせたか

ウ 友達のどのような考えに影響を受けたか エ 今後課題にすることは何か、どのように解決したいか。

※どの授業からでも言えるような振り返りではなく、本時ならではのことを振り返る。

ア～エの要素を入れた雛形「今日は・・・と考えたら、～がわかった。〇〇さんの「 」という考えがよいと思った。次は□□したい。」

⑥活用への見通し

「今日学習した読み方が他に使える場面はないでしょうか。」「今日の学びはどこで役に立ちそうですか。」

子どもにゆだねる国語科授業づくり

1 授業をはじめる前に「学びとは、子どもが自立的に行うもの」

△「最後はこちらが用意した結論でまとめよう」

→「こちらで考えや用意しておくけれど、子どもの言葉を生かして一緒にまとめよう。」

△「この一線を越えたら、注意するぞ」

→「この一線を越えたら、まずは観察してみよう。それでも分からなかったら、なせと聞いてみよう。」

「どのように声をかけようかな。」「どのようにゆだねようかな。」「この子は、何をしているのかな。」

「自分らしく学ぶ(自分のペース、目標、方法)」⇔(行ったり来たり)「他者の考えを受け入れる」

2 4つの自己決定

(1) 方法をゆだねる。

例「マス 罫線 白紙」「ノートか端末か」「大きな画用紙にまとめるのか、小さなカードにまとめるのか。」

「どのツールを使うのか」「表現の方法(音読劇、続き話、本の紹介)場所、空間を決める。」

(2) 相手をゆだねる。(こういう理由で〇〇さんと)

他者と学ぶ価値(相手のことを知ることができる。自分のことを見つめ直すことができる。)を共有する。

(3) 時間をゆだねる。

ア 1単位時間の枠・・・振り返りを〇時〇分から行うので、それまでの時間をどのように使うのかをゆだねる。

ポイント

○「方法」「相手」をゆだねることから始める。

「誰と一緒に学びますか」「どこで学びますか」「何を使って学びますか」

○「時間」をゆだねることに挑戦する。

「20分あります。自分で考えたり、必要ときに相談したりして学びをつくっていきましょう。」

○課題をゆだねるときは、だんだんと広げていく。

「やりたいこと」を尊重しながら「やるべきこと」を自覚、納得できるようにしていく。

国語の目標を示してから、課題を自分で決めるなど。

イ 1単元の枠・・・情報の収集に〇時間、構成の検討に〇時間、記述に〇時間など。

○単元の導入は、子どもと教師の共有の時間(何を自己決定するのか。)

○何を自己決定するのかがわかったら、計画づくりをする。

○単元が動き始めたら、子どもを見取り、自覚できる場面を設定する。

ウ 1学期の枠

(4) 課題をゆだねる。(やりたいこととやるべきことを見つけて、そこに向かって学んでいくこと)

3 「ゆだねる」授業での教師の役割

(1) 安心できる環境をつくる。

(2) 子どもを見取る・・・観察、想像、対話を繰り返す。

○振り返りの分析 ○テストの分析

○授業内の観察と対話

誰と関わっているか、どんな表情の子が多いか、記述や対話の内容

見えていないことがあれば、対話する。すてきだと思うところ、課題だと思うところを「私の考え」として伝える。

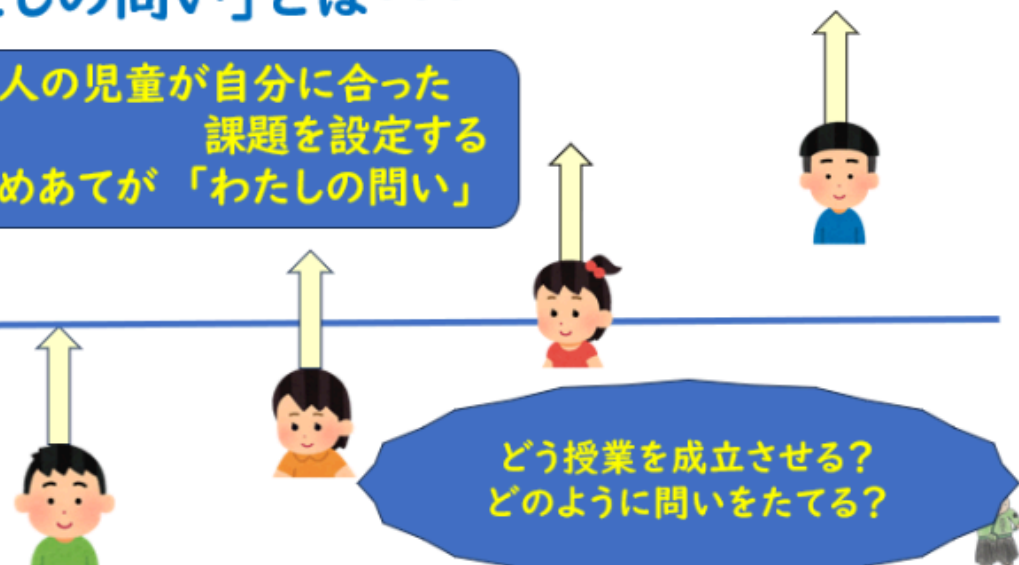
(3) 学びを一緒に楽しむ。

「問い」を立てる練習について

「わたしの問い」とは・・・

一人一人の児童が自分に合った課題を設定する個人のめあてが「わたしの問い」

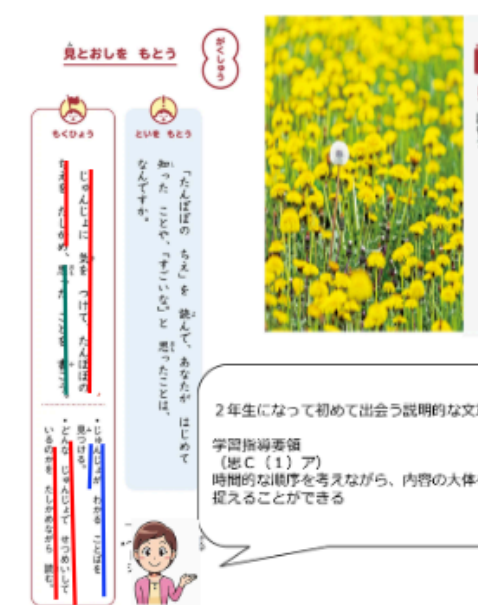
B評価



どのように「わたしの問い」を立てるのか

「私の問い」を立てるというのは、
何でもいから問いを立てるのではない。
教師と児童が、同じゴールを見据えて、
問いを立てることが必要。

- ・「たんぽぽのちえ」はいくつあるのか
- ・たんぽぽはどうやって育つのか
- ・たんぽぽのたねはどうやってできるのか
- ・どうしてたんぽぽは地面に倒れて栄養を送るのか。
- ・どうして綿毛の落下さんができるのか
- ・綿毛のらっかさんはどうやってとぶのか
- ・たんぽぽはどうやってなかまをふやすのか
- ・どうしてたんぽぽはちえをはたかせるのか
- ・なぜ、春になるとたんぽぽは黄色い花をさかせるのか
- ・食用のタンポポはあるのか
- ・たんぽぽはどんなところでさくのか
- ・たんぽぽはどうしてなかまをふやすのか



ステップ② 児童と「問い」を立てる練習 →問いは何のために立てるのか

問いを立てる目的は、生涯を通して主体的に学び続けることができる人として成長する基盤となる「問いを立て、それを解決していこうとする力」を育てるためです。

(引用) 「ここからはじまる国語教室」 達富洋二

ステップ② 児童と「問い」を立てる練習



どうすれば子どもたちが自分の「問い」を持てるようになるのでしょうか?

- ★その単元でどんな力を身に付けさせたいのか、考えておくこと。
- ★子どもに問いを持たせる前に、教材研究をし、教師自身がたくさんの問いを持っておくこと。
- ★教師自身が問いを立て、例としてあげ、選択することから始める

(参考) 『国語教育相談室』 光村図書「子どもの問いから始まる学び」

ステップ② 児童と「問い」を立てる練習



目標達成ができない問い、文章を読んでも分からない問いを立てたときどうすればいいのでしょうか。

- ★子どもが真剣に考えて出した問いに価値のないものはありません。
- ★子どもたちと一っしょに「問い」を分ける
- 例) 浅い問い→教科書を読んだら分かる問い
- 深い問い→文章から自分で想像しながら解決する問い
- 関係のない問い→読んだところで分からない問い

自分の問いが「浅い問い」や「関係のない問い」だと気づいた子どもは、そこで問いを変更します。まずは自分で問いを立てる価値を繰り返し語り続けることが大切。

(参考) 『国語教育相談室』 光村図書「子どもの問いから始まる学び」
「ここからはじまる 国語教室」 ひつじ書房 達富洋二

児童と「問い」を立てる練習

学習のポイントその①「社会の目（見方）」

分類	社会の目（見方）			獲得できるもの
	場所	時間	関係	
「知る」ための問い いつ？どこで？ だれが？ 何を？どのように？	どこで広がったのか どのように広がっているのか	何がいつ変わったのか どのように変わってきたのか	だれが〜しているのか どのような工夫があるのか	目に 見えるもの 事実
「分かる」ための問い なぜ？ そもそも何？	なぜこの場所に広がっているのか	なぜ変わっているのか	なぜ協力することが必要なのか	目に 見えないもの 意味 特色 想い 願い
「判断する」ための問い どちらが〜？ 〜すべき？	さらにこの場所に広げるべきだろうか	どのように変わっていくべきなのだろうか	主に協力する上でAとBとどちらが必要だろうか	

根拠を明らかにしながら「目に
見えないもの」を、自分の言葉にできる
→見方・考え方の成長

※児童のポートフォリオスライドに記載
(参考)『社会科「個別最適な学び」授業デザイン 理論編』 宗責直樹

教科書の活用

新しい教科書も、見方・考え方を働かせる
問いの設定方法例が記載されている

学習過程（単元導入などで示す）

学習のポイントその④「1時間の学習の流れ」（例）

学習過程	その具体	ポイント
1 課題設定	・最初の資料をみる ・めあてに沿った 予想を立てる	・単元のめあてや身につけたい力を意識する ・「学習内容」と「学び方」の視点で ※「社会の目」「使いやすい考え方」を参考にする
2 情報収集	・予想が正しいか情報収集する	・まずは自分の力で集めてみる ・「見方・考え方」を働かせる ・「事実」と「解釈」を意識しながら読み取る
3 整理分析	・集めた情報を整理する → まずは分類(仲間分け) ・情報を分析する → 見方・考え方が大切	・思考ツールを必要に応じて活用する ・具体的に説明できるようにする ・分析は、友達への質問や資料をもとにする ※「社会の目」「使いやすい考え方」を参考にする
4 まとめ・表現	・課題に対する自分なりの答えを言葉にする ・授業の振り返りをする	・自分なりのめあてやゴールと照らし合わせる ・「振り返りの視点」に沿って振り返る

授業のゴールを意識する

自分なりのポイントを見つけて、学びの「質」を高め、型を教える

学習過程の型（毎時間クラスルーム上で示す）

参照しながら自分で学びを進める
→少しずつ情報を減らしていく

各学習過程の回し方・活動の例

めあて(課題)設定

全体のめあて
めあて 米づくりがかわる課題に対してどのような取組を進めているのか調べ、人々の思いや努力を考えよう。

授業のゴール
【ゴール】
B: 〇米づくりがかわる課題に対する取組が分かる。
〇関わる人々の思いや努力を自分なりにまとめている。
A: Bを深め、課題の資料や文章を結び付けながら考えをまとめている。
S: Aを深め、課題の「社会の目」「考え方」を働かせている。

問題解決に向かう時に働かせてほしい見方・考え方
キーワード
社会の目…「消費者」「農家の目」「協力」「費用や作業の負担」「思いや努力」
考え方…「何と何を比べる?」「一言で言う?」「流れと〇〇を関連付けると?」

個人のめあて
課題設定 自分なりの学び方のめあてを振り返り用スプレッドシートに書く。
学び方の視点→「コミュニケーション」「振り返り」

【個人のめあてについて】
最初は「学び方」のめあてを立てる(学び方のスキルを参考にする)
→見方・考え方が育ってきたら、「学習内容」のめあて(課題)も立てる

情報収集

情報収集

①米づくりの課題に対する取組について、予想をchatに書く。
(挑戦したい人は「人々の思いや努力」も書く)

②「キーワード」を意識して、米づくりの課題に対する取組を調べる。
→ネットの情報へ(chatで共有)

予想を立てる(ノート、chatどこでもよい) → 授業の最後で比較する

問題解決に繋がる情報を、教科書を読んで集める → 教科書だけでは分からないところはネットで情報収集

教科書を正しく読み、適切に情報を取り出せるように鍛える

情報収集

学習のポイントその③「教科書の読み取り方」(例)

最初に読んでみよう

資料と資料を比べよう

資料と文章を対応させよう

小見出しがキーワードになるかも...

キーワードは、具体的に説明できるようにしよう

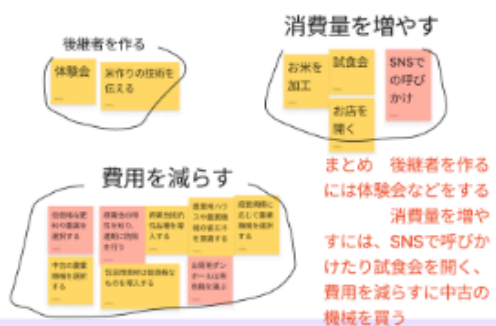
教科書の読み取り方を丁寧に教える

整理分析(端末上での整理)

整理・分析 ①変化の裏側にある人々の思いや努力について、自分の考えをつくる。
米づくりの課題→課題に対する取組→思いや苦勞

②仮説(考え)を交流して、さらに考えを深める。

⑥これからの米づくり



「教科書の情報」と「自分の考え」を分けて整理させる
※できれば自分なりのまとめも書かせる

整理・分析(考えの交流の際)

学習のポイントその⑤「アウトプット」※イメージはポケモン

- ①違う意見の人とアウトプット**
たくさんのトレーナーと戦ったら(アウトプット)経験値がもらえる!
→話し合えば話し合った分だけ賢くなる
→自分が立てた仮説を多面的に見ることができる
- ②質問をする**
それぞれのタウンの人々に話しかけることで、技マシンなどをもらえる!
→「～ってどういうこと?」(キーワードや言葉に意味の確認)
「～と比べたら…だけど、～と比べたら…じゃない?」(比較の視点)
「確かに～だけど、～とも言えないかな?」(多面的に見れているかの確認)
- ③仮説の証明する→相手を納得させる**
戦わせるポケモンや技、タイミングなどを選んで戦わない
→・根拠となる資料・構造化したジャムの提示・具体的な言葉・質の高い解釈 などを選びながら説明する。 ※自分は簡単

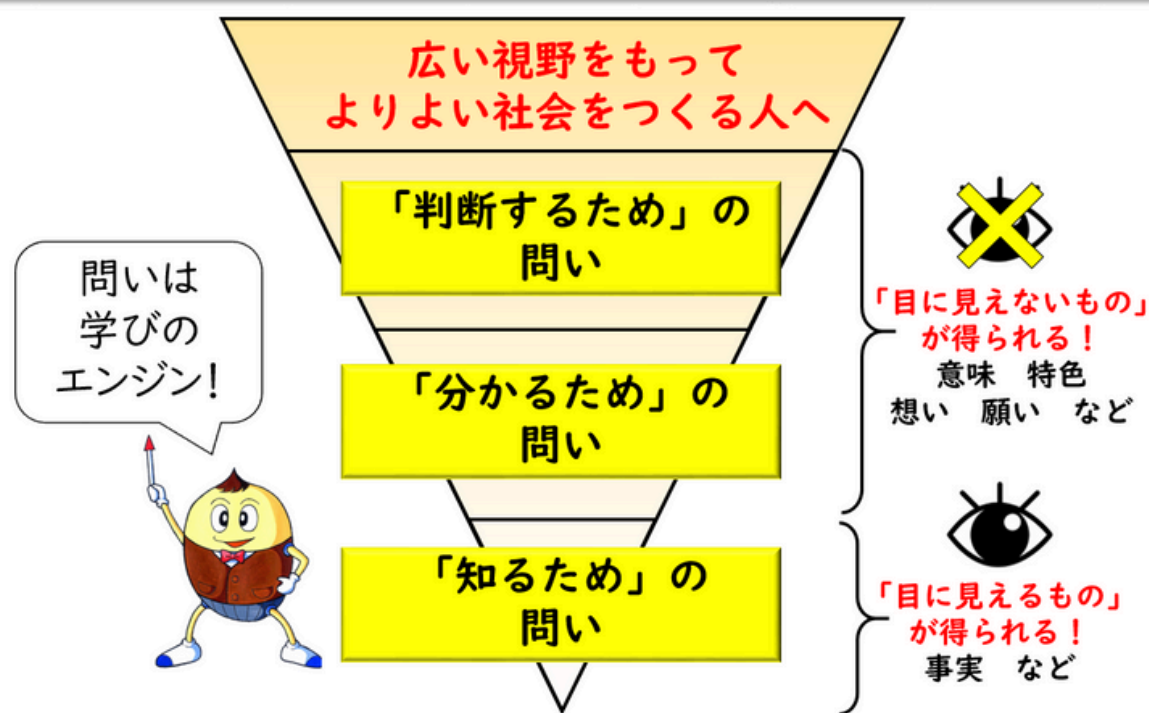
考えの交流の仕方を丁寧に教える・価値づける

まとめ・表現、振り返り

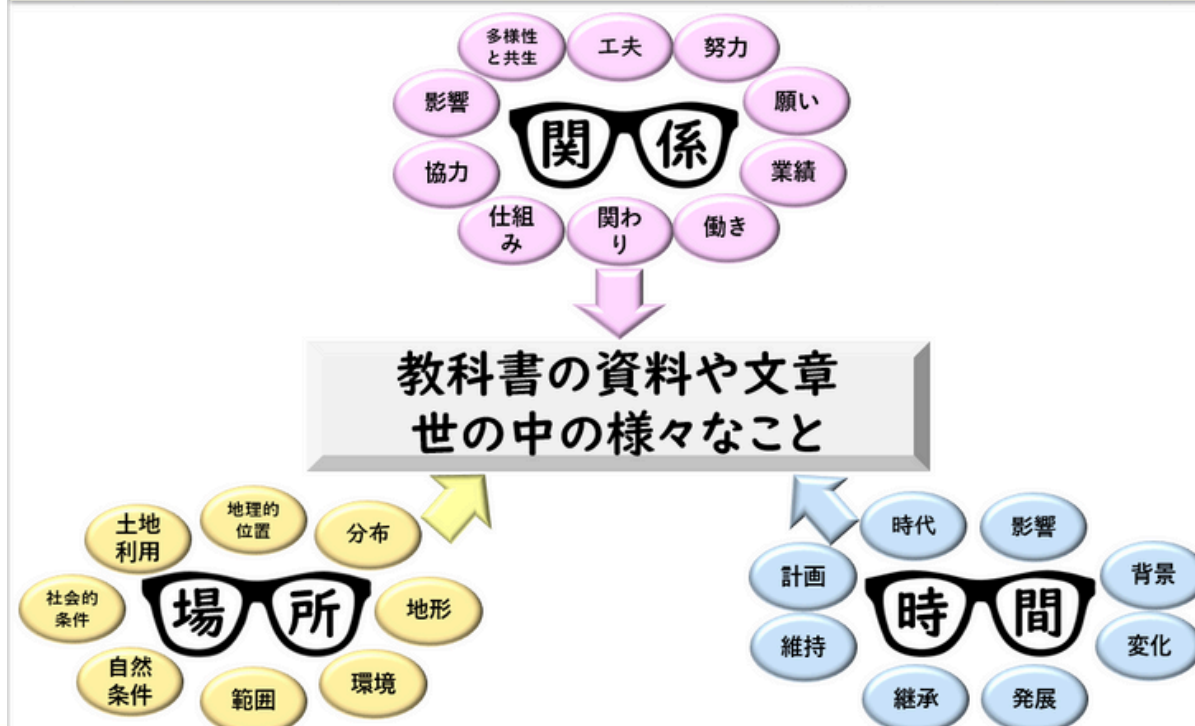
★「学び方」「学習内容」2つの側面振り返り
★はじめのうちは「量」→内容の「質」を高めていく

児童とのイメージの共有（揭示）

社会の「問い」



社会の目

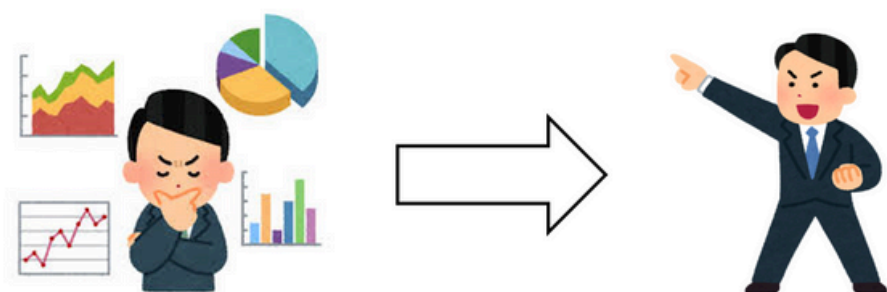


社会で使いやすい考え方

1 比較する	〇〇と△△を <u>比べると</u> ・・・が違う/ 同じ
2 総合する	〇〇と△△を <u>まとめると</u> ◇◇と いえる
3 関連付ける	〇〇と△△ <u>結びつけると</u> ◇◇と いえる
4 抽象化する	集める→分類する(仲間分け) → <u>見出しをつける</u>
5 「もし・・・」 でみる	「もし～でなければ」 「もし～だったら」

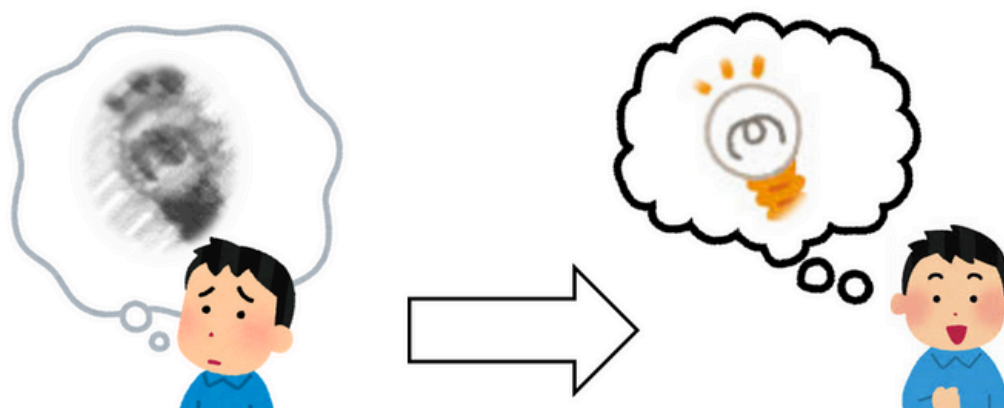
判断するための問い

～すべき?
どちらが～?
これから～?



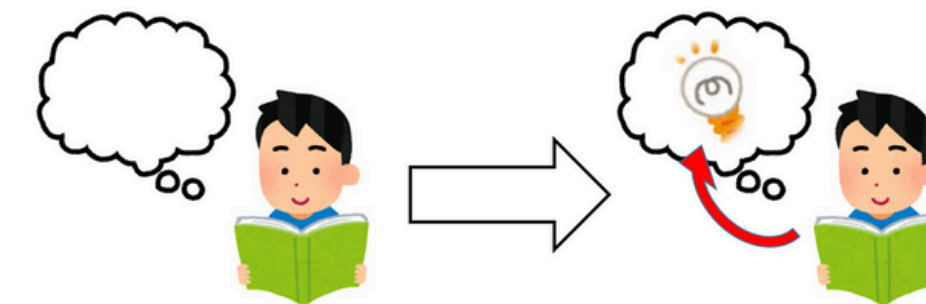
分かるための問い

なぜ?
どのように?



知るための問い

いつ? どこで?
だれが? 何を?
どのように?



【算数科における教育のイメージ】

◎ 数学的な見方・考え方を働かせ、算数の学習を生活や学習に活用するなどの算数的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

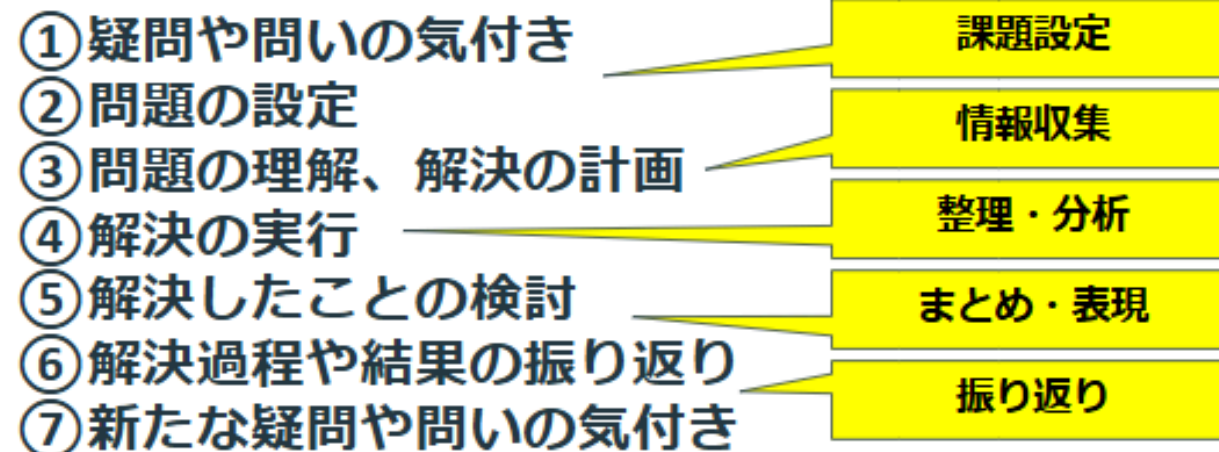
- ① 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に表現・処理する技能を身に付ける。
- ② 日常の事象を数理的にとらえ見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。
- ③ 算数のよさに気づき、算数の学習を生活や学習に活用したり、学習を振り返ってよりよく問題解決したりする態度を養う。

○ 事象を数理的に考察したり、自分の考えを数学的に表現し処理したりする活動を充実する。
 ○ 具体物、図、数、式、表、グラフ相互の関連を図り、問題解決する活動を充実する。
 ○ 友達の考えから学び合ったり、学習の過程と成果を振り返り、よりよく問題解決できたことを実感したりする活動を充実する。

文科省資料より

算数科における 資質・能力の育成のために重視すべき学習過程の例

南小の授業展開に当てはめると



文科省資料より

ステップ① 教材分析(算数)

単元の目標

学習の系統性の分析

単元のゴールの姿の明確化

【既習事項】やそれに関する【見方・考え方】の洗い出し

単元の導入で、本単元に関わる既習事項と見方・考え方を、徹底しておさえる

児童が、見方・考え方を働かせて思考し表現する授業に

見方・考え方を明確にして、児童が自覚できるように価値づける

ステップ① 教材分析(算数)

単元を通して働かせる見方・考え方

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること

どんなことに着目すればよいか

着目したことから何を考えればよいか

【数と計算】数量や大きさに着目する。構造を捉えるために場面に着目する。
 【量と測定】量(もの大きさ)に着目する。
 【図形】形に着目する。
 【数量関係】(関数)数量や図形についての事柄と、他の捉えやすい事柄との関係に着目する。
 (式)構造を捉えるために、場面の数量の関係に着目する。
 (資料)集団の傾向や変化の様子などを捉えるために統計的なデータに着目する。

【数と計算】具体物や図、式などを用いて考える。具体物や図、式の相互の関係を考える。数の大きさを変えて、統合的・発展的に考える。
 【量と測定】比較する。(差で、倍で)測定する。
 【図形】概念を形成したり性質を見いだしたりするために相異点と類似点を考える。論理的に考える。形を変えて、統合的・発展的に考える。
 【数量関係】(関数)決まれば決まるのかどうか考える。特徴や傾向を見いだすために、関係を、言葉、数、式、表、グラフを表すことを考える。
 (式)テープ図や数直線などのモデルとの対応を考える。整数から小数などに拡張して発展的に考える。一般的に表すことを考える。
 (資料)目的に応じて表現するのに適切なグラフは何かを考える。処理した結果(グラフ、代表値)について、基の事象に当てはめた解釈を考える。

見方

考え方

文科省資料より

各学習過程の回し方・活動の例

ステップ② 課題設定・情報収集

①疑問や問いの気付き ②問題の設定 ③問題の理解、解決の計画

課題設定
情報収集 既習事項をもとに、今日使えそうなことを確認する。
→「算数の目」として提示

めあて
見方・考え方 の共有 → 板書・手順表

【めあて】 合同な三角形をかくときの頂点のきめ方を考えよう
【ゴール】 B: 三角形をかくための必要な長さや大きさを理解している。
めあてやゴールの姿
A: Bを満たし、合同な三角形のいろいろなきめ方を考えたり説明したりしている。
S: Aを満たし、この長さや大きさがあれば頂点をきめることができると、必要な条件だけをしぼりこんで説明することができる。

【キーワード】 算数の目→「頂点」「辺の長さ」「角の大きさ」
見方
考え方
考え方→できるだけ調べる長さや大きさを少なくして、三角形の頂点をきめたい。いくつのことが分かればすべての頂点をきめられるか。

ステップ② 課題設定・情報収集

①疑問や問いの気付き ②問題の設定 ③問題の理解、解決の計画

課題設定
情報収集 既習事項をもとに、今日使えそうなことを確認する。
→「算数の目」として提示

【課題設定】
・問題に出会い、前の時間とのつながりや、ちがいについて考える。
・問題をとらえ、自分なりのめあてを立てる。
【情報収集】
・これまで学んだことが使えそうか考える。
・自分一人でできるかやってみる。
・友だちと話し合ったりチャットを使ったりして、解き方にかかわる情報を共有する。

【整理分析】
・分かったことをノートやジャムボードにまとめたり、アウトプットしたりする。
【まとめ・表現】
・スプレッドシートに振り返りを書く。
～振り返り(スプレッドシート)の視点～
①分かったこと・できたこと
②分からなかったこと・できなかったこと
③友だちから学んだこと
④学び方(一人学び・学び合い・ツールなど)
⑤次に生かすこと(学習内容と学び方の視点)

学習の進め方の共有

学習の個別化

ステップ③ 整理・分析

④解決の実行

整理・分析
・課題解決の時に着目したポイント(算数の目)を、chatに送らせる。
→考えをノートやスライドに書く際、chatにある言葉を使ってみるように促す。

チャットで、算数の目(見方・考え方)にある言葉を使って考えを共有させる

ステップ③ 整理・分析

④解決の実行

整理・分析
・課題解決の時に着目したポイント(算数の目)を、chatに送らせる。
→考えをノートやスライドに書く際、chatにある言葉を使ってみるように促す。

手順に沿って自分で学び進めることができるスライド等の活用
(スカイメニュー発表ノート・Googleスライド等)

学習の個別化

ステップ④ まとめ・表現

⑤解決したことの検討

まとめ・表現
・とにかくたくさんの友達に説明・質問させる。
→説明の時の言葉の中に、見方・考え方が表れているか着目させる。

ノートやフィグジャム、Googleスライドで、考え方や分かったことをまとめる。(または友だち同士考えを参照できるように)

学習の個性化

ステップ⑤ 振り返り

⑥解決過程や結果の振り返り ⑦新たな疑問や問いの気付き

振り返り
・意識した「見方・考え方」を振り返りで記述させる。

振り返りの視点に沿って、まとめと振り返りを行い、交流する。(ノート、スプレッドシート、フィグジャム等)

1

研究概要

2

授業改善部会

3

学びの基盤部会



児童用ミッションシート

1. 2年生 Googleチャレンジ ミッションシート			() ねん () ぐみ	なまえ ()	
月	ミッション	こゝ目	情報	できたらチェック	
9	ログインしてみよう	①	パスワードをにゅうりょくして ログインしよう	<input type="checkbox"/>	
		②	つかいおわったらログアウトしよう	<input type="checkbox"/>	
10	しゃしんやどうがをとってみよう	①	じぶんの「ふでばこ」「けしごむ」「とけい」をしゃしんでとってみよう	<input type="checkbox"/>	
		②	しゃしんがとれているかどうか、ひらいてかくにんしよう	<input type="checkbox"/>	
		③	とけいのしゃしんのなまえを「とけい」にかえてみよう	<input type="checkbox"/>	
		④	じぶんのじこしょうかいをどうがでとって、みてみよう	<input type="checkbox"/>	
11	ネットでしらべてみよう	①	けんさくのとぎにつかうアプリをさがしてひらいてみよう	<input type="checkbox"/>	
		②	なんというなまえかしらべよう	<input type="checkbox"/>	
		③	しらべたものをがぞうでだしてみよう	<input type="checkbox"/>	
12	クラスルームのかだいをやってみよう	①	クラスルームでせんせいからのかだいをひらこう	<input type="checkbox"/>	
		②	ふでばこのしゃしんをはろう	<input type="checkbox"/>	
		③	おきにいりのポイントをペンでかこんでみよう	<input type="checkbox"/>	
		④	かだいをせんせいへていしゅつしよう	<input type="checkbox"/>	

3. 4年生 Google チャレンジ ミッションシート			() 年 () 組	名前 ()	
月	ミッション	こゝ目	情報	できたらチェック	
9	ドキュメントで日記を書いて先生に提出しよう	①	Google ドキュメントをひらいて、キーボードのローマ字入力で日づけを入力しよう	<input type="checkbox"/>	
		②	きのうの日記を書こう	<input type="checkbox"/>	
		③	Google ドキュメントを、先生にたいしゅうしよう	<input type="checkbox"/>	
10	ネットでけんさくして分かったことをFigjamに入力しよう	①	すきな生きもの（どうぶつや虫）を1つえらんで、その生きものの「えさ（何を食べるか）」をしらべよう	<input type="checkbox"/>	
		②	えらんだどうぶつについて、とくちょうなどをしらべ、ふせんで入力しよう	<input type="checkbox"/>	
		③	べつ の どうぶつ について しらべ、えらんだ どうぶつ と に て い る と こ ろ ・ ち が う と こ ろ を、ふせんで入力しよう	<input type="checkbox"/>	
11	Google フォームでアンケート調査をしよう	①	Google フォームで作ったアンケートを、Classroom のストリームページでとうこうしよう	<input type="checkbox"/>	
		②	友だちのアンケートに回答したら、コメントで答えおわったことをつたえよう	<input type="checkbox"/>	
		③	Google スプレッドシートをひらいて、アンケートのけっかを、ひょうにあらわそう	<input type="checkbox"/>	
		④	ひょうをグラフにしてみよう	<input type="checkbox"/>	
12	Google スライドで学習したことを発表しよう	①	Google スライドをひらいて、タイトルを入力しよう	<input type="checkbox"/>	
		②	文字やしゃしんをつかってまとめよう	<input type="checkbox"/>	
		③	作ったスライドを、クラスの共有（きょうゆう）ドライブにほぞんしよう	<input type="checkbox"/>	
		④	作ったスライドを、タブレットの画面で見せながら、友だちにはっぴょうしよう	<input type="checkbox"/>	

情報収集

学習のポイントその③「教科書の読み取り方」(例)

最初に見てみよう

資料と資料を比べよう

資料と文章を対応させよう

小見出しがキーワードになるかも...

中心の問いです。自分の問いと比べてみよう。

キーワードは、具体的に説明できるようにしよう

資料の読み取りを手助けしてくれるよ

教科書の読み取り方を丁寧に教える

朝自習等を活用して繰り返し練習
 → 「見方・考え方」を働かせた読み取りへ

朝自習の時間等に毎月実施

※「内容」のプルダウンは、1～3年生はスキル編、4～6年生は探究編の目次を入れてあります。

		11月21日(木)		12月19日(木)		1月9日(木)		2月6日(木)		3月13日(木)	
		内容	実施	内容	実施	内容	実施	内容	実施	内容	実施
1-1	①写真や...	▼	☑	④情報を...	▼	☑	②キーボ...	▼	☐	▼	☐
1-2	①写真や...	▼	☑	④情報を...	▼	☑	②キーボ...	▼	☐	▼	☐
2-1	①写真や...	▼	☑	④情報を...	▼	☑	②キーボ...	▼	☐	▼	☐
2-2	①写真や...	▼	☑	④情報を...	▼	☑	②キーボ...	▼	☐	▼	☐
3-1	⑥情報を...	▼	☑	⑧プレゼ...	▼	☑	②キーボ...	▼	☐	▼	☐
3-2	⑥情報を...	▼	☑	⑧プレゼ...	▼	☑	②キーボ...	▼	☐	▼	☐
3-3	⑥情報を...	▼	☑	⑧プレゼ...	▼	☑	②キーボ...	▼	☐	▼	☐
4-1	(参考)...	▼	☑	(参考)...	▼	☑	(参考)...	▼	☐	▼	☐
4-2	(参考)...	▼	☑	(参考)...	▼	☑	(参考)...	▼	☐	▼	☐
4-3	(参考)...	▼	☑	(参考)...	▼	☑	(参考)...	▼	☐	▼	☐
5-1	①身の回...	▼	☑	⑤情報社...	▼	☑	③情報発...	▼	☐	▼	☐
5-2	①身の回...	▼	☑	⑤情報社...	▼	☑	③情報発...	▼	☐	▼	☐
6-1	③情報発...	▼	☑	⑤情報社...	▼	☑	①身の回...	▼	☐	▼	☐
6-2	③情報発...	▼	☑	⑤情報社...	▼	☑	①身の回...	▼	☐	▼	☐
		11月21日(木)		12月19日(木)		1月9日(木)					
		スキル編	探究編	実施	スキル編	探究編	実施	スキル編	探究編	実施	スキル編
な1	①写真や...	▼	☑	②キーボ...	▼	☑	▼	▼	☐	▼	▼

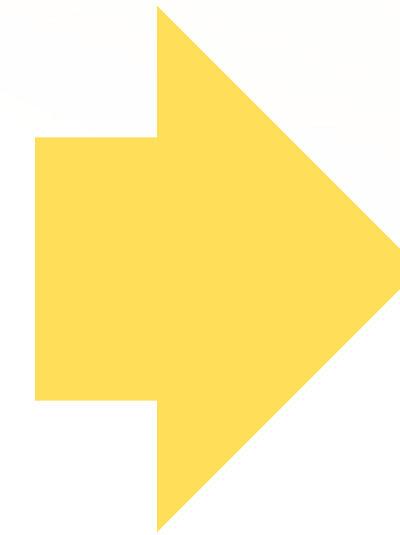
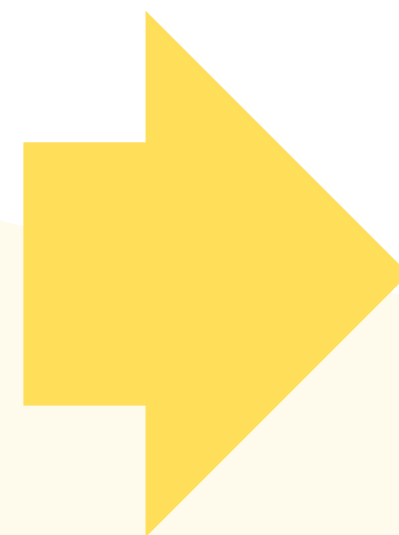
クラスの実態に合わせて実施

毎週金曜日 朝自習「タイピングタイム」 月末金曜日の朝自習・・・記録の集計

スクールタイピング

フォームズに
打数を入力

スプレッドシートで
打数、順位を共有



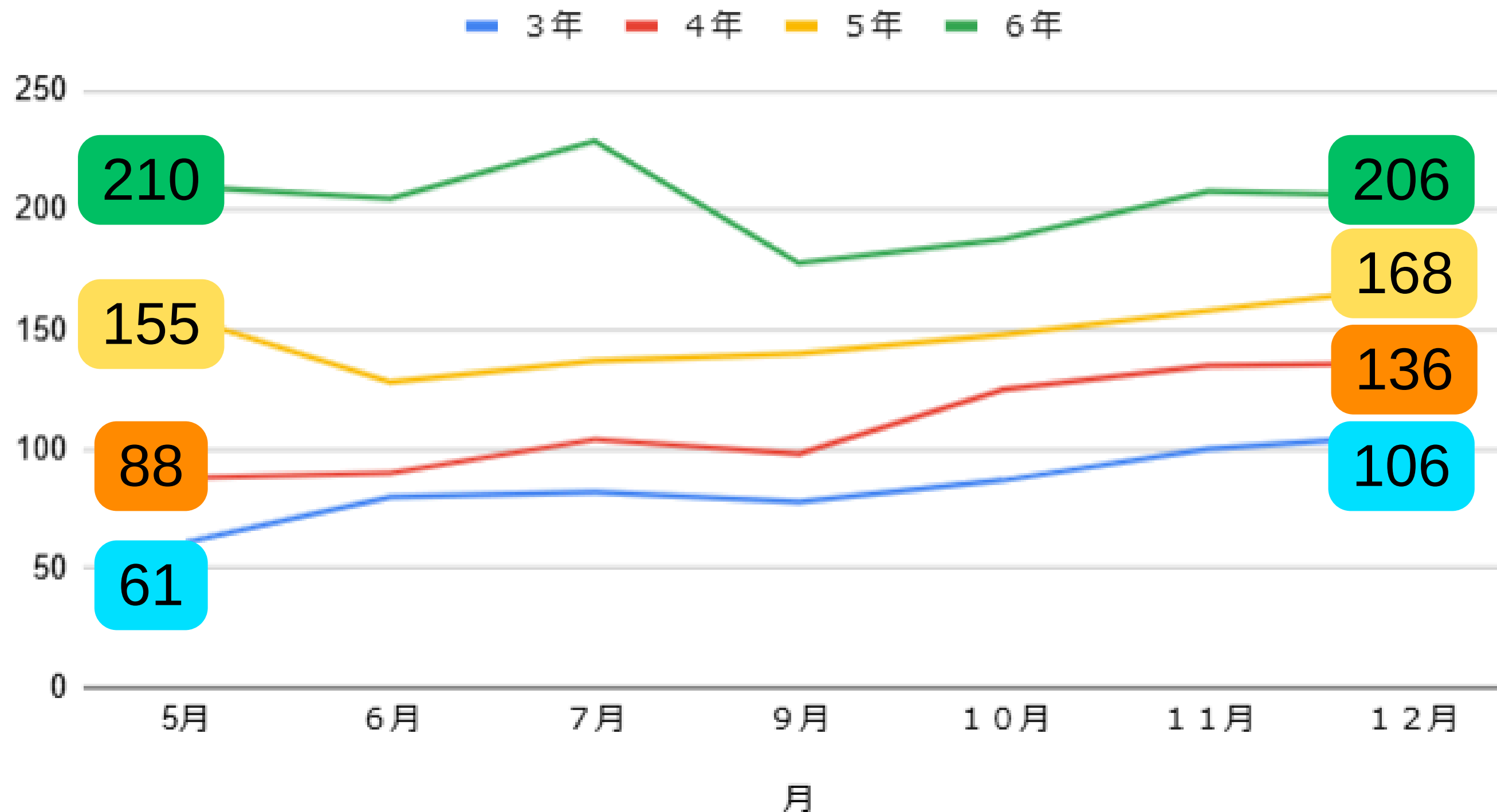
タイピングスキルが向上

→ 日常的な端末活用 + 朝自習「タイピングタイム」の実施



5月→12月の伸び

タイピング打数（1分間あたりに換算、小数点以下切り捨て）



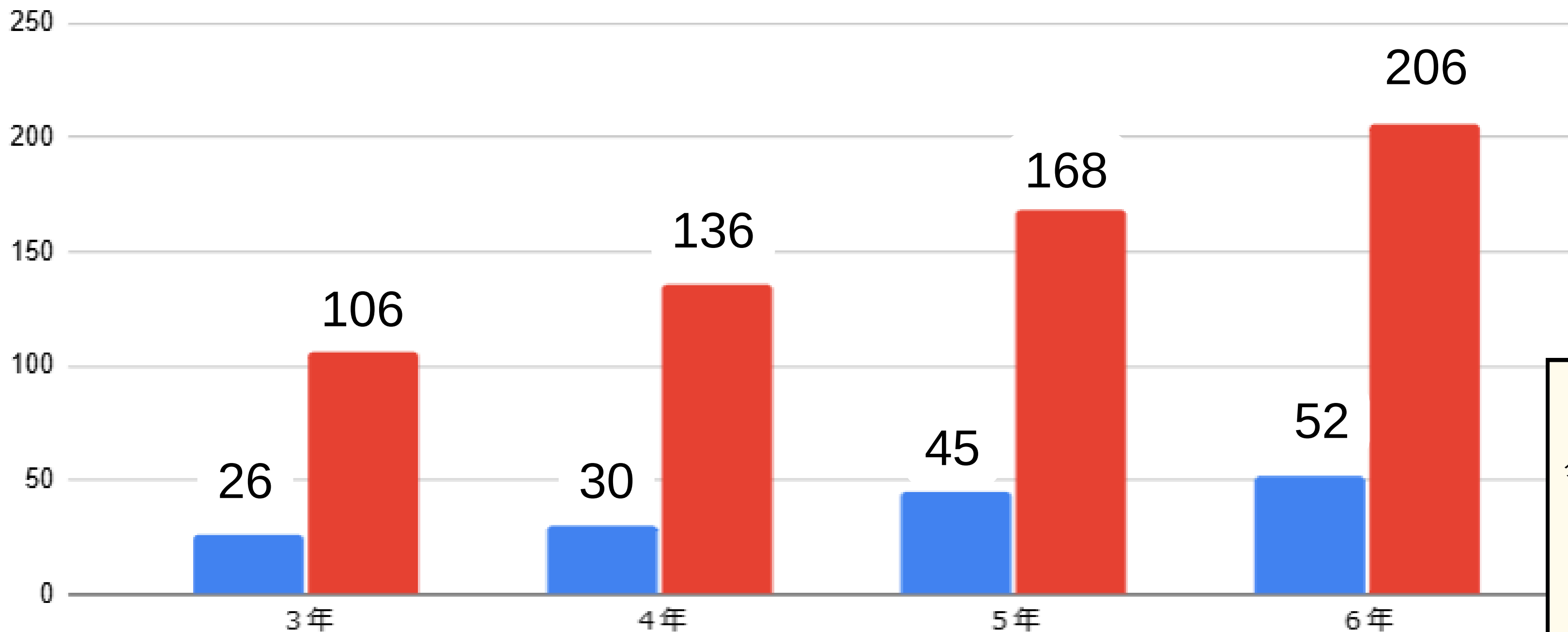
6年	大きな変化はなし
5年	13文字アップ
4年	48文字アップ
3年	45文字アップ

タイピングスキルが向上

→ 日常的な端末活用 + 朝自習「タイピングタイム」の実施

第3回全国統一タイピングスキル調査と本校の比較（1分間あたりの文字数）

■ 第3回全国統一タイピングスキル調査 ■ 本校12月記録（平均）



〈参考〉
第3回全国統一
タイピングスキル調査
結果報告
https://edu-net.co.jp/press_2023_21

タイピングスキルが向上

→ 日常的な端末活用 + 朝自習「タイピングタイム」の実施

11月から12月 ▼

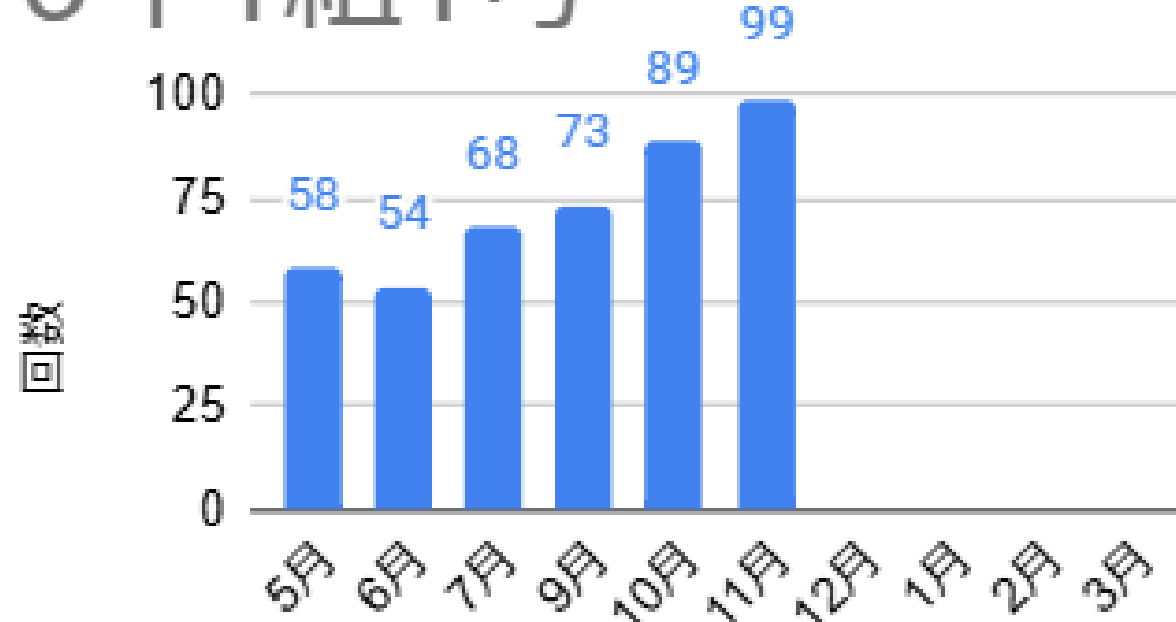
5年1組

【クラス順位】	名前	伸び率	11月の回数	12月の回数
1位	Aさん	136.4%	88	120
2位	Bさん	116.0%	156	181
3位	Cさん	111.7%	213	238
4位	Dさん	111.0%	254	282
5位	Eさん	108.2%	110	119
6位	Fさん	104.3%	139	145
7位	Gさん	102.4%	287	294
8位	Hさん	102.4%	290	297
9位	Iさん	100.9%	114	115
10位	Jさん	99.5%	197	196

個人のタイピングスキルの可視化 (ICT支援員作成)

→一人一人の状況把握を効率的に行える

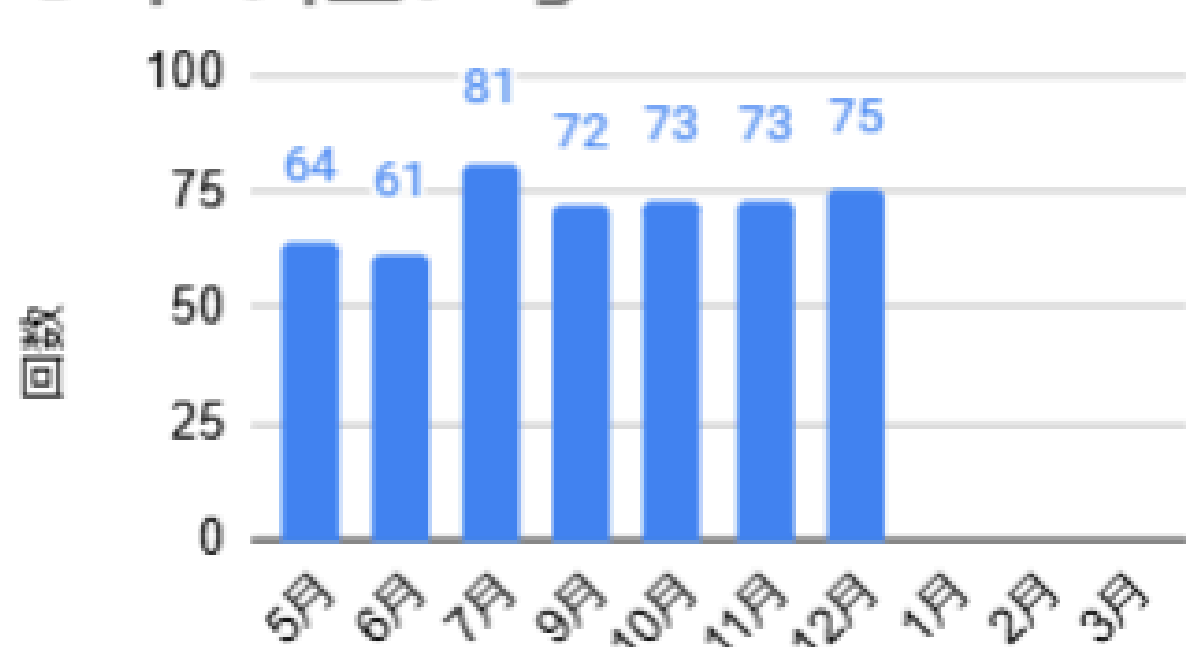
3年1組1号



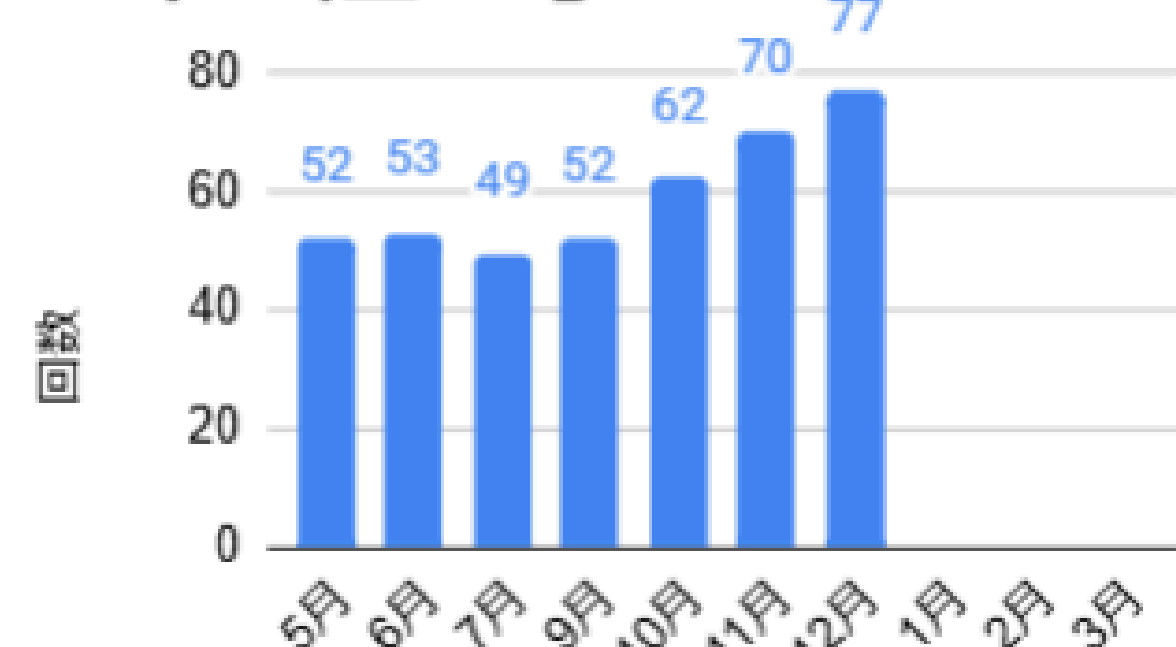
3年1組2号



3年1組7号



3年1組8号



個人のタイピングスキルの可視化 (ICT支援員作成)

→一人一人の状況把握を効率的に行える



<p>私は、教科書や資料をみて思ったことが3つあります。1つ目は資料で、長い文章があるなかで資料を見て、色などついていて見やすいことと、色々なこととが比べられるのでとても見やすかったです。2つ目は、文章の途中で資料1を見て下さいなど、資料をみて固有種の動物がわかったり、色々な変化などがわかったりしたので良かったです。3つ目の筆者の考えは、固有種が住む日本の環境をできる限り残すことだと思います。日本の環境で、住める固有種は自分の住みやすい温度や環境のところで住んでいるけど、人間の活動が活発になり環境に悪いことをしないように、気をつけること。私は、日本の環境を大事にして、固有種が減らないように、日本の環境を残すことと思います。</p>	313	修正しました！	A
<p>私は教科書と資料を見て思ったことが3つあります。まず一個目は画像、写真といっしょに詳しく図に書いているところがあって、よりわかりやすくなっているその内容がものすごくわかりやすくなっている所です。2個目は筆者さんが読む人に見てもらいたいところに、図を見て下さいなどの声かけのようなものがあり、読めばいいところがすぐに分かり、より詳しく読むことができるからです。3個目は固有種がなぜ長く生きることができたのか、中に沢山の資料が入っており固有種の特徴や、その動物にあった場所、気温などがわかり、固有種が人々のなんの役に立っていたのか。なぜ固有種が減ってきているのかなどがわかって固有種の生き方などがわかったことで、最後私は筆者さんがみんな（読む人）のことを考えて文章を書いていていいと思います</p>	346	書きました！	A
<p>私がこの固有種が教えてくれることを読んで資料に触れながらの自分の考えは、まず資料2を見ると2つのことがわかりました。一つは、152ページに書いてある更新世のことを図で説明していることです。更新世って言われても最初は一番新しい時代なのかなって思ったけど図を読んでいくうちに約何年前と書いてあってこんな昔なのと思いました。そして2つ目は文章に多くの動物が大陸からわかってきたとされていますって書いてあります。それは資料2の下の方の図がどんどん動物が違う場所にわたっているということが読み取れました。次は、資料3、4を見て文章では大まかに説明してあるけど図を見ると寒い地域と暖かい地域の差はこのぐらい大きいのかと具体的に頭に入りました。資料4は標高の高い、山岳地帯まで変化したというのは、具体的にどのぐらいの標高があるかがわかりやすかったので書くときに真似したいです。そして色と数字で表してあったので個人的意見では、最初読んだときは文章だけ見てわからなかったけど、あとから資料とつなげて読むと今ではもう大体の文章の流れが覚えているのでとても文章とつなぎあわせやすかった。それで文章をよんで思ったことは、固有種ののほごにはその生息環境と保護とのバランスが重要ということがわかりました。そしてわたしはこれからもし保護する人にしようらいなったら環境もよくしながら固有種だけでなく人間も環境に心配がないような環境を作りたいです。そして他の人もその環境を当たり前にとってほしい。</p>	638	終了！Happy！	S

**自分のペースで
課題に取り組む**
→ 加除修正も
家庭で行う
(国語)

長期休暇の宿題進捗

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
	ウィンター 12	・2・3	第4・5・6	第7・8・9	第10・11	国1・2・3	国4・5・6	国7・8・9	毎日の日記	作品募集	自学p1~5	自学p6~10	読書2冊以上	
9	立石 美	済	済	済	済	済	済	済						済
10	玉田 愛莉	済	済	済	済			済						済
11	辻本 奥大	済	済	済	済	済	済	済						
12	島原 恵伍													
13	中村 蓮	済	済	済	済									
14	濱崎 望結	済	済	済	済						済	済	済	済

家庭での練習記録 (体育)

ゆりかご 10回	カエルの足うち 10回	V字バランス 10秒	だるま転がり 3周
【ゆりかご】(回転感覚) ・ボールを意識する ・首をまるめる	 手と手の間を見ながら、足で拍手をするよ。何回叩けるかな？ ・お尻を高く上げる ・2回足を打てる人は2回打つ	 ・腹筋に力を入れて	 3回転がって、元の位置に戻れるかな？ ・体全体で転がるイメージ
3回目	3回目	6回目	1回目
2回目	1回目	2回目	2回目
4回目	1回目	1回目	1回目
4回目		1回目	
2回目	1回目	1回目	3回目

今後の方向性

職員回答 教育評価結果

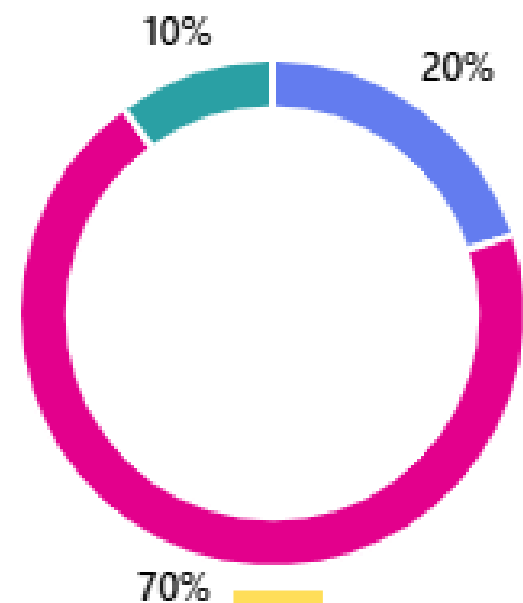


Q1.単元の指導事項やゴールを見通し、バックワードデザインによる構成を行い、「学び方が成長する」授業づくりを進めることができたか

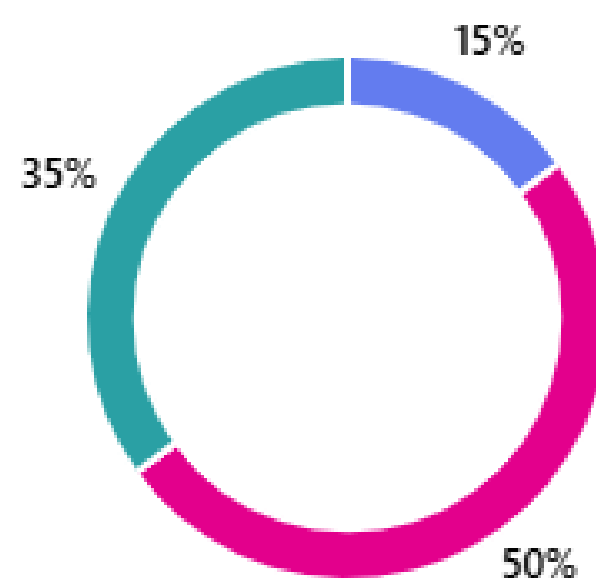
Q2.教師の指示を減らすことを意識し、児童自身で学習活動を決められるような時間を適宜設定することができたか

Q3.授業の中で、児童同士が自分の考えを交流し合う時間を意図的に設定することができたか

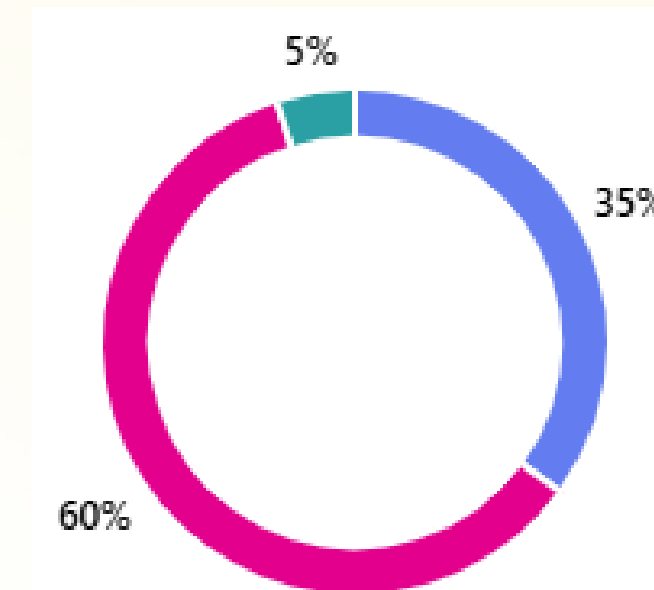
1 学期



10%アップ

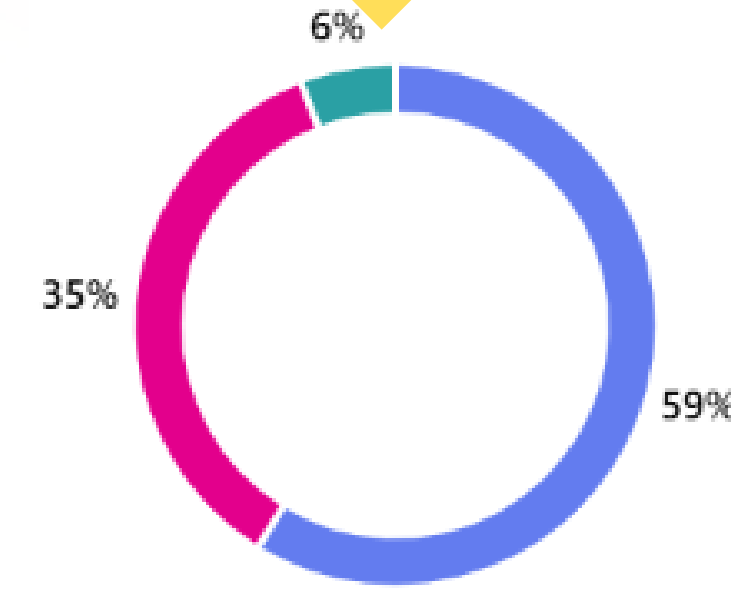
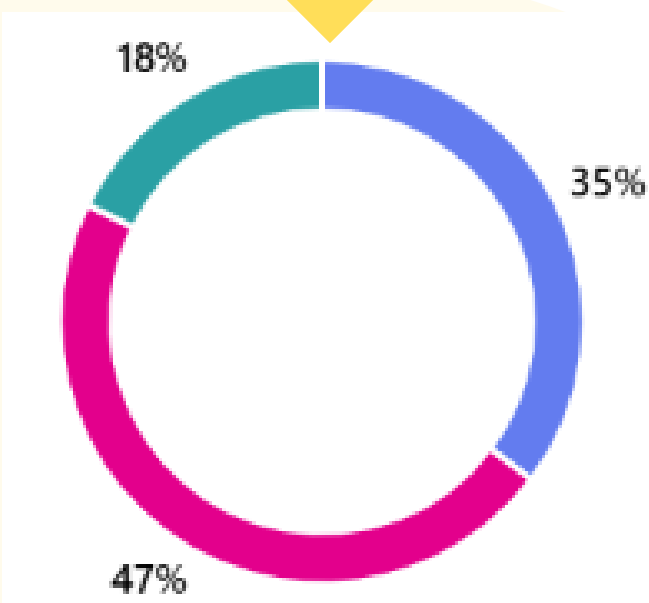
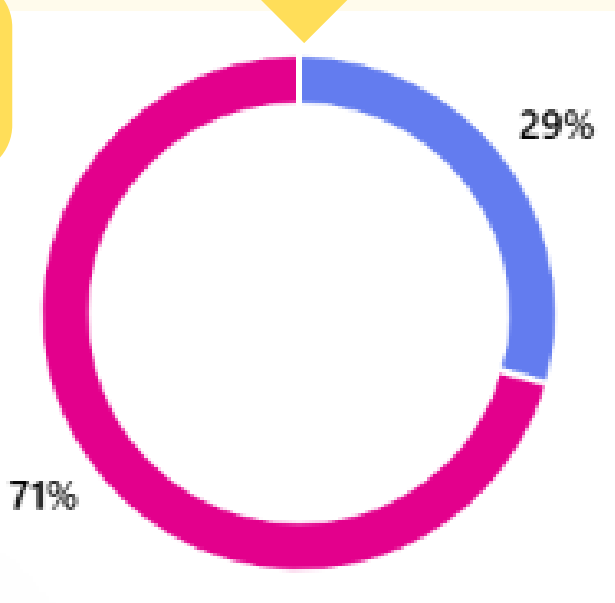


17%アップ



「よくできた」14%アップ

2 学期



回答の色 → よくできた できた あまりできなかつた

授業改善

学び方のスキル

- ・ 段階ごとに目指す児童の姿や最終ゴールをさらに具体化
→ 児童との共有とさらなる意識付け
- ・ 重点項目としてまだ設定していない「学び方のスキル」の育成に関する実践の蓄積

見方・考え方

- ・ 教科ごとの教材分析、学習構想の在り方の例を、全職員で共有（継続）
- ・ 学習過程における目指す児童の姿を再整理（課題設定→まとめ・表現）
- ・ 児童のアウトプットの様子をもとにした、学習状況把握と成長の見取り（端末上の整理、対面での言語化、振り返り）

教師の手立て・役割を研究し、持続可能な授業改善へ

→ 「学びの成長システム」づくり

学びの基盤づくり

- ・ 支持的風土のある学級づくり
- ・ 学習基盤としての情報活用能力育成
 - 目指す姿、育成の視点、系統性、共通実践、教科の特質に応じた能力の整理と共通理解・実践
- ・ 多様な学びの創出
 - 端末を活用した学びの情報交流（縦割り、学校間など）
 - 端末持ち帰りの充実
 - ツール・アプリ活用
 - 児童が意図的に選択できるようにする